

「屁理屈ではなく熱意、 熱心さのある信仰を！」



松山福音センター主任牧師・
アンデレ宣教神学院代表

万代栄嗣

最近では低体温、冷え性の方が増えているとのこと。特に女性の方々とお話ししていると、平均体温は35℃台です、という方が想像以上におられて、少々びっくり。体温が1℃上がるだけで免疫力は何倍にもなるそうです。経済だけでなく、身体も冷え込むことはやはりよくありません。

しかし、もっと深刻なのは、心の冷え性。“核家族化”という言葉が使われ始めて、もう数十年。今では、“引きこもり”や“家庭内別居”も当たり前で、“独居老人”だけの問題ではなく、価値ある“個人”を目指していたはずが、今では“孤人化”が大問題です。愛を感じることも注ぐこともなく、志やビジョンに情熱を燃やすこともなく、ただ自分の好きなことをボーっとし続けるだけの冷めた生き方、冷え込んだ心が蔓延しています。

クリスチャンとしての信仰は、難行苦行や小難しい理屈に価値があるのではなく、シンプルに大胆に主キリストが与えてくださった新しいいのちを生きることにあります。“いのち”があるのであれば、そこには必ず熱や温かさが伴うはずで

あなたの信仰には、キリストのいのちが流れていますか？ キリストの熱い血が、あなたの魂の器に流れているのでしょうか？ 世の中の冷やかな人間関係や、パソコンやスマホに向き合うだけの孤独な生き様でなく、神の家族と共に、愛や喜びのある毎日が実現していることが大切です。

屁理屈や様々な言い訳を越えて、あなたの心が熱意や熱心さで燃えていますように。パウロは、献金の話題をきっかけとしてコリントの兄弟姉妹たちに信仰の実践を語りかける時、“熱意”や“熱心”という言葉を連呼しています（Ⅱコリント8～9章）。

“…あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させました。(9:2)”

中途半端に世慣れして、いつのまにか霊的冷え性に陥る前に、燃やされた熱い信仰に立ち返りましょう。時には、礼拝の最前列に座りませんか？ たまには大声で主を讃美しませんか？ 財布が軽くなるくらい本気の献金をしませんか？ 時には断食祈禱や徹夜祈禱にもチャレンジしませんか？ そんな身近な所からでも、信仰を熱く燃やしていきましょう。

TPCの活動目的

- (1) 閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える
- (2) 超教派として活動する
- (3) 毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う
- (4) 伝道、学びなどのために貸室を提供する